

令和3年度 寄附講座にかかる評価報告

寄附講座は、本学が自主性、主体性を持ちながら、研究・診療・教育の活動を行っている一方で、寄附者からの寄附金を財源としていることから、講座運営の透明性や研究活動の実績、成果を求められております。

このことから、毎年、活動報告書や成果報告会において報告を受け、寄附者や外部有識者で構成する寄附講座アドバイザーなどにより、各講座の活動に対して評価を行い、適切でより良い講座運営が図れるよう取組みを進めております。

1 評価の概要

寄附講座にかかる評価は、各講座から提出された研究活動報告書・診療実績報告書・教育活動報告書をもとに、寄附者や寄附講座アドバイザーなどの評価を踏まえ、まとめたものです。

(1) 評価者

①寄附者（12団体 ※辞退者を除く）

②寄附講座アドバイザー（6名）

公立大学法人会津大学 理事 岩瀬次郎 氏

一般財団法人大原記念財団 理事長（兼 大原総合病院 院長） 佐藤勝彦 氏

置賜広域病院企業団公立置賜総合病院

臨床検査部長 兼 輸血部長 兼 病理科科長 前田邦彦 氏

公益財団法人福島県産業振興センター 理事長 松崎浩司 氏

奥羽大学 薬学部長 衛藤雅昭 氏

大和自動車交通株式会社 代表取締役社長 大村雅恵 氏

③学内評価者（4名）

医療研究推進戦略本部長、副本部長、医療研究推進センター長、医療産業連携部門長

(2) 評価の区分

講座の活動における計画に対する達成度合いに応じて以下の区分により行っております。

S：優れている（計画の100%超）

A：評価できる、適切である（計画の80～100%程度）

B：やや改善を要する（計画の60～80%程度）

C：改善を要する（計画の60%未満）

2 評価結果

評価者による評価の結果、大半の講座の研究活動、診療実績、教育活動については評価できる、適切であるとの評価をいただきました。

特に、講座の目的および計画に対して、どのような活動が行われ、どのような成果が上げられたのかを寄附者へ丁寧に説明すること、積極的に論文化に取り組むこと等の助言や、次年度が最終年度の講座に対しては、事業計画を完遂することへの期待が寄せられました。

講座名	評価区分	評価	主な意見
地域包括的 癌診療研究 講座	研究	S	<ul style="list-style-type: none"> ・会津地域の特性を捉え、包括的癌診療を地域の病院と連携しながら研究が進められている。 ・集学的な治療を目指し、外科治療、化学療法、放射線治療さらに緩和ケアまでをトータルに計画し、それを着実に進めている点は素晴らしい。 ・会津中央病院の「がん治療センター」でのがん診療の実践をおこなうとともに、癌診療に関連する薬物療法マニュアルや化学療法を受ける患者への啓蒙資料の作成、講演会の実施などを行い、実績を出していると評価する。
周産期・小児 地域医療支援 講座	研究	A	<ul style="list-style-type: none"> ・須賀川市及び周辺地域における周産期・小児医療の実態と問題点が明確になるとともに、蓄積された臨床データに基づき周産期・小児医療の向上につなげることができている。 ・産科医療及び周産期医療が福島病院から公立岩瀬病院に移管されたが、診療援助体制が適切に調整され、今後も研究が推進されるものと大いに期待している。 ・周産期死亡率の高い原因と対策について、更なる研究進展が期待される。
	診療	A	<ul style="list-style-type: none"> ・須賀川地域の医療情報の解析を踏まえた形での診療活動が計画されており、当該地域の周産期および小児医療の問題点に対応する診療活動が展開されていくものと期待される。 ・福島病院から岩瀬病院へ周産期医療のスムーズな移行がなされ、安全な周産期医療の提供ができている。 ・小児科医および産婦人科医育成のためのプログラムの開発にも、さらに注力いただき、当該地域ひいては福島県全体の次世代医療の基盤の形成にも尽力いただきたい。
災害医療支援 講座	研究	A	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの論文掲載や学会発表が示され、福島災害医療研究会の継続・発展においては、優れた実績が積み重ねられている。 ・東日本大震災を経験した福島県にとって、「復興」は第一の命題であり、それを支援する本講座の意義は極めて大きい。様々な医療課題と災害や感染症対応における地域特性を結びつける多角的なアプローチは極めて学際的で、大変重要な取り組みと思われ、その成果を高く評価する。 ・講座に所属する医師の志が高く、災害地域での医療活動を評価する。

災害医療支援講座	診療	A	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のニーズに沿って医療活動がなされ、地域、病院、診療科の枠を超えて地域の診療に実績を上げている点。 ・災害地域での医療活動の継続を期待する。 ・各々の地域課題と結びつけて、災害医療をいかに展開していくかという視点は大変重要であると思うが、さらに後継者をどのように養成していくかについても示していただけるとさらに息の長い実践が期待される。
地域産婦人科支援講座	教育	A	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民に対する啓発活動が活発になされている。 ・教育の効果を実際の診療の中で評価し、フィードバックしている点。 ・地域全体をカバーすることは一人では困難であり、医科大学や自治体にも協力してもらって効率的に生徒達に教育できるように計画されたい。 ・国のパピローマワクチンの積極的推奨への変更に対応し、益々の発展を期待する。
	研究	A	<ul style="list-style-type: none"> ・論文掲載や学会発表が示され、着実に実績が積み重ねられている。 ・いわき地域の産婦人科疾患の問題点を解決すべく研究テーマに据えている。 ・計画が遅れているという自己評価が適切になされている。 ・卵巣癌のマーカーに関する研究について、研究成果をまとめ、継続か終了かを明らかにすること。研究テーマの切り替えや追加などは、寄附者と協議して進捗状況を明示されたい。
	診療	A	<ul style="list-style-type: none"> ・地域周産期を一手に引き受け、期待以上の診療実績を積み上げている。 ・コロナ禍の中、いわき市のいわき市医療センターを中心に診療の提供が行なわれ、里帰り分娩の受け入れなど様々な医療ニーズへ対応している。 ・診療体制を維持するとともに、今後、次世代の育成も視野に入れたさらなる展開を期待する。
生体機能イメージング講座	研究	A	<ul style="list-style-type: none"> ・現在進められている治験の結果が数年後に出ることを期待している。 ・研究成果から臨床研究へシフトしていくことで適切な計画になっている。 ・アミロイド PET と MRI のマルチモダル脳イメージングを導入し、認知症の早期診断につながる様々な知見が得られ、数多くの論文公表などにつながっていると評価する。 ・総合南東北病院に併設された南東北創薬・サイクロtron研究センターと連携し、最新の機器や PET 薬剤を駆使した、先進的な取り組みと評価する。
多発性硬化症治療学講座	教育	A	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中で、学生、研修医、医師、患者・家族など様々な対象者に対して、頻回の教育活動をおこなっており、本講座の目的の一つは十分に達成されている。 ・世界、全国に向けて教育活動が進められている。 ・神経疾患の診療を目指す医師を増やすよう医学生への教育活動もお願いしたい。 ・講演等の主旨を理解したかを評価する適当な尺度があれば、それを活用した調査も有効かと思う。

多発性硬化症 治療学講座	研究	S	<ul style="list-style-type: none"> ・病態が未解明な多発性硬化症(MS)や視神経脊髄炎(NMO)、MOG 抗体関連疾患についての疫学調査、臨床病態の解析、診断基準の確立など、研究が着実に行われていると評価する。 ・非常に多数の論文掲載や学会発表が示され、優れた実績が積み重ねられていることを高く評価する。 ・国際診断基準作りへの参画や新たな病態の解明に着手している。
	診療	A	<ul style="list-style-type: none"> ・多発性硬化症(MS)や視神経脊髄炎(NMO)、MOG 抗体関連疾患の診療には、様々な診療科や施設との連携が必要であり、これらを有機的に結びつけた積極的な診療体制の構築は大変素晴らしい。 ・独自の診断法を用い、全国の患者さんの診断を行っている。 ・今後の診療に関する方針について記載がない。 ・診療体制を維持するとともに、今後、次世代の育成も視野に入れたさらなる展開を期待する。
ヒト神経生理学講座	研究	S	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで、有効な治療法が見出されていなかった脊髄損傷患者や神経変性疾患の診断・治療に関する臨床研究の立ち上げ、およびその神経生理学的基盤の検討がなされ、研究が行われている。 ・講座設置期間の2年度目にもかかわらず、多数の論文公表あるいは学会発表がなされ、研究実績として高く評価する。 ・脊髄損傷患者のQOLを向上させるための、リハビリテーション分野での研究、本学健康科学部理学療法学科なども巻き込んだ研究の展開を期待する。
	診療	A	<ul style="list-style-type: none"> ・専門医師が不足している地域において、診療実績を挙げている。 ・適切な診療、とくに対応の困難な神経障害へのアプローチに取り組んでおり、極めて有意義な実践と評価する。さらに、会津地域の医療の底上げにも寄与していると思われる。 ・継続した診療活動が可能となるような次世代の育成も視野にいれた取り組みにも期待。
先端地域生活習慣病治療学講座	研究	A	<ul style="list-style-type: none"> ・地域医療機関や住民に向けた啓発活動を活発に行い評価できる。 ・論文も多数出版されており、実績は出ている。 ・遠隔透析医療の推進を図り、将来の透析医療の標準化を目指して取り組んでいる。 ・災害時の遠隔透析の体制を構築するための研究につなげられたい。 ・生活習慣病として高血圧や高尿酸値などもあると思う。慢性腎疾患の背景にこれらの項目も関係するであろうから、計画の文言として表に出てもよいと思う。
	診療	A	<ul style="list-style-type: none"> ・南相馬市立病院を拠点として、相双地区における慢性腎臓疾患の予防と治療の社会実験を試みるという非常に興味深い取り組みが実践されており評価する。 ・寄附者の意向を踏まえ地域住民の健康増進に寄与している。 ・南相馬市をモデルケースとして、全県下に研究・診療の成果を広げられたい。 ・講座の設置期間を超えた、息の長い活動につながるような次世代の育成も期待したい。 ・多数の患者さんを一括して診療する体制の構築によって、症例数が多くなければできない研究テーマへと発展されたい。地域の医療こそが新たな研究の場を提供することを実現する大きな期待を寄せている。

エピゲノム 分子医学 研究講座	研究	A	<ul style="list-style-type: none"> ・講座開設から数か月の期間ではあるが、目的の研究が進んでいる。 ・初年度の短期間で論文が発表されるなどの成果あり。 ・令和4年1月より始まった研究であるが、eRNAに着目し、がんの病態解明や創薬ターゲットの探索研究であり、今後の発展が期待できる。 ・目的の達成に向けて精力的な研究を期待する。
周産期間葉系 幹細胞研究講 座	研究	A	<ul style="list-style-type: none"> ・設置から日が浅いが、期間に見合った成果である。 ・令和3年11月から始まった研究であり、間葉系幹細胞を使用した研究発展が期待される。この研究の推進による将来の展望を示されたい。 ・どのような細胞が好ましいのかを明らかにし、好ましい細胞と好ましくない細胞のコントロールとなる細胞の収集が必要。それがなければAIは学習できないのではないかと。難しい課題だが成功を祈念する。
肥満・体内炎 症解析研究講 座(アスタチン 核種治療研究 講座)	研究	A	<ul style="list-style-type: none"> ・論文報告が数多くなされている。 ・現時点で得られている結果は、見直しが行われた成果である。 ・肥満と脳の関連について研究成果を出した。 ・今回の成果を次のステップにつなげることを期待する。
運動器骨代謝 学講座	教育	A	<ul style="list-style-type: none"> ・骨折はその生命予後とQOLに関与し、学生、医療人、市民への啓蒙は大変重要であり、熱心に教育活動されている。 ・診療科を超えて教育を行っている点が優れている。 ・骨折する前の骨粗鬆症の段階での治療も重要で整形外科や婦人科だけでなく、一般内科医にも啓蒙する必要があると思う。 ・他の寄附講座の中にも関連した分野で活動している講座があるので、ぜひ連携されたい。 ・効果把握のためには参加人数の把握や参加者の評価などがあればより良かったのではないかと。
	研究	B	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な研究活動が計画されていたが、新型コロナウイルス感染症の蔓延により計画通りに実施されなかった。 ・学会発表や論文執筆などができている。 ・寄附者へ定期的な研究進捗状況を報告しているとは思われない。 ・臨床研究を目指す姿勢が評価される。 ・講座の目的に診療のことを記載してはどうか。
低侵襲腫瘍 制御学講座	研究	S	<ul style="list-style-type: none"> ・全県のデータを取りまとめるなど、地域医療に根差した素晴らしい研究が進められている。 ・本拠地とする病院にとどまらず、福島全体のデータから福島の医療を解析している点はすばらしい。また研究を通して若手医師の教育が進められているのは見習うべきと感じた。 ・多数の英文論文・著書の執筆や学会発表がされている。 ・コロナ禍の中でできることを進めている。
外傷再建学 講座	教育	S	<ul style="list-style-type: none"> ・医師のみならず、メディカルスタッフの教育にも熱心に取り組み、チーム医療として総合的な診療を目指そうとする姿勢が大変評価できる。 ・コロナ禍の中、オンラインでのセミナー開催など、時宜を捉えた教育活動が実施されている。 ・効果把握のためにはセミナー参加者の評価などがあればより良かったのではないかと。 ・将来を見据え若手医師の育成に対する施策に重点的に取り組んでいる

外傷再建学 講座	研究	S	<ul style="list-style-type: none"> ・外傷治療の臨床的研究において優れた実績を残している。 ・数多くの論文、著書、学会発表がなされている。 ・多職種連携を目指して実践的な研究が進展している。 ・スタッフの人員不足の中、医大との連携を深め、研究を進展させる努力がされている。 ・診療の面で多大な貢献をしているので、講座の目的を診療と教育を中心にしても良いのではないか。
	診療	S	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中、確実に診療実績を伸ばしており、その存在が認められている。全国から気概のある医師が集まることを期待する。 ・他の診療圏からの紹介患者など手術件数が伸びている。 ・人手不足、コロナ禍など困難な状況の中、地域の医療に大きな貢献をしている。 ・引き続き、地域医療の確保に尽力されたい。
スポーツ医学 講座	教育	B	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生や高校生に検診を通して教育がなされている。 ・若手医師、理学療法士への検診方法の指導、小学生へのストレッチ指導が実践された。 ・新型コロナウイルス感染症蔓延のため(特に、子供の)開催が減った。次年度の活動に期待する。 ・コロナ禍の中、状況の変化に対応した工夫が必要ではないか。 ・保健科学部の理学療法学科や作業療法学科の先生達ともぜひ連携されたい。教育の効果を検証すること自体が重要な研究となると思う。是非、体育の先生たちにも教育されたい。
	研究	A	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生や高校生のスポーツ外傷について、現場に赴いて検診し、研究している。 ・臨床的研究を踏まえて論文化や学会発表がなされた。 ・実践的な臨床研究を目指す姿勢が評価される。 ・教育同様、保健科学部や放射線科などと連携してはどうか。
	診療	A	<ul style="list-style-type: none"> ・福島県立医大、南東北病院にてスポーツ外来診療実績を上げている。 ・整形外科医が十分ではない状況で、着実な診療がされている。 ・体外衝撃波治療など新しい治療が導入されている点。 ・引き続き、地域医療の充実に努めてほしい。 ・正しい教育が普及し、診療件数が減ることを期待する。
手外科・ 四肢機能 再建学講座	教育	A	<ul style="list-style-type: none"> ・院内で治療セミナーを開くなど、適切に実施している。 ・効果把握のために例えば参加者の評価を得るなどの工夫があれば良かったのではないか。 ・コロナ禍の中、状況の変化に応じて、院外、院内の勉強会が再開された。 ・引き続き、若手医師等の治療レベルの向上に貢献してほしい。
	研究	A	<ul style="list-style-type: none"> ・日常診療の中から症例報告を出すなど、目的に沿った研究が行われている。 ・地域に貢献しつつ臨床研究を目指す姿勢が評価される。 ・治療成績を学会発表、論文化している。 ・市立病院ですので、いわき市の保健福祉部などと共同で寄附講座の診療活動がいわき市民にもたらしたメリットを検証することは可能か。例えば、手の障害で身障者になる人が減ったなど。

手外科・四肢機能再建学講座	診療	S	<ul style="list-style-type: none"> ・整形専門医が十分ではない状況で、着実な診療がされている。 ・手外科手術件数を増加させ、地域で成果をあげている。 ・コロナ感染症による手術制限もあった中、期待どおり、もしくはそれ以上の成果を上げているものと考えられる。
地域救急医療支援講座	教育	S	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度は、福島市で各臨床研修病院の研修センター長や研修医のニーズの聞き取りを行い、各病院で十分な研修体制がとられている。 ・教育効果の数値化案については補助的なものと考えるが、設定される場合はR5年度が最終年度であることから急がれるべきかと。 ・コロナ禍にありながらも、救急医療に特化した教育活動を研修医指導や市内学校教育現場等において、着実に実施できるよう体制がしっかり生まれ、運営できている点を評価する。
	研究	S	<ul style="list-style-type: none"> ・救急搬送困難事案の分析に加え、2次救急輪番医療機関への当直支援効果を検討し、論文化し、それを次の救急医療の改善に生かしている点。 ・更なる救急搬送困難事案の減少に向けて、市民の救急医療ニーズや受診動向を分析するとともに、各医療機関における課題を明確にし、改善策の検討・提示もお願いしたい。
	診療	S	<ul style="list-style-type: none"> ・2次輪番病院への当直支援は、救急搬送困難事案の減少に大きく貢献しており、高く評価する。 ・スタッフが十分とは言えない条件下で、卓越した診療実績を挙げている。 ・コロナ禍で業務多忙にもかかわらず、福島市との意見交換の場を設けた。
白河総合診療アカデミー	教育	S	<ul style="list-style-type: none"> ・初期、後期研修医のみならず、医学生に対しても教育に熱意をもって取り組んでいる。後期研修医を中心に臨床研究の教育指導を行い次世代の指導者の育成を図っている。 ・教育を通して将来スタッフとなる専攻医獲得につなげている。 ・極めて高い評価を得ており、このレベルを維持されたい。 ・医療スタッフに対する教育の効果を評価する方法を工夫されたい。
	研究	S	<ul style="list-style-type: none"> ・白河市と共同して住民を対象とした生活の質向上プロジェクトを開始して、現状分析から改善策に繋げる研究を行っている。 ・研究の質・量ともに充分である。令和3年度は13編の英文学術論文を発表し、過去最高となった。 ・研究専従教官を1名置いて、月ごとに研究ごとの進捗状況が報告されている。 ・設置期間が終了した過年度(平成27年～令和1年度)の研究業績が記載されている。適切な記載を。
	診療	S	<ul style="list-style-type: none"> ・入院・外来ともに前年比15%増加、日中の全救急車対応、COVID19感染病棟での中心的な役割を担うなど、診療活動は質量ともに充実している。 ・新たに訪問診療を開始するなど、さらなる地域貢献を行っている。 ・地域の医療ニーズとしての在宅訪問診療開始はありがたいが、コロナ感染症対応もある中、マンパワー不足は教育研究面も含めた総合的課題であることを認識し、検証が必要と考える。

疼痛医学講座	研究	S	<ul style="list-style-type: none"> 慢性疼痛治療研究において優れた実績を残している。 多職種チームでの診断治療を行う中で、情報共有に努めかつ職種ごとの研究テーマを明確にし、組織連携も視野に入れ、就労・社会復帰まで考慮したプログラム作成を目指している。 活動の方向性が明確であり、症例集積も継続されており評価に値する。 多職種チームの為、各構成員の課題を共有することと解決策検討はタイムリーであることが大事と考える。
	診療	S	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で入院プログラムの在り方を見直しながらも、多職種チームでの診断治療の実践に努め、実績をあげている。 困難な状況の中でも、可能な限り診療継続し、成果をあげていることは高く評価できる。 今年度の成果を次年度以降の活動計画にフィードバックされたい。 診療実績の年度別経過報告の記載があるとわかりやすい。
外傷学講座	教育	A	<ul style="list-style-type: none"> ニーズを把握し、適切に教育活動が行われていると考える。 看護師に対する教育の効果をどのように検証するのか、評価法を検討していただきたい。 Webでの教育を行うなど、工夫が凝らされている。
	研究	S	<ul style="list-style-type: none"> 研究目的が明確で、データベースの解析、症例の蓄積、基礎研究が着実に実施され、論文発表も多いことは評価できる。 FG や PET を使った診療についての研究がすすめられ、研究成果があがっている。また動物を使った研究も推進されている。 論文(20編)など着実な成果。厚生省の認定により外傷データベース、FFNでのデータ収集病院が拡大する方向であり、今後の拡大にも期待。
	診療	S	<ul style="list-style-type: none"> 外傷データベースの分析、症例の解析を行い、的確な外傷治療を行うために活用する体制づくりを進めており評価できる。 少ないスタッフ条件で、優れた診療実績を挙げている。 専門性の高い診療が行われている。 診療実績の年度別経過報告の記載があるとわかりやすい。
心臓調律制御医学講座	教育	S	<ul style="list-style-type: none"> 効果的な教育の実施のため、教育活動の効果の検証がなされている。 学生からも少人数での講義及び実習について評価が高く、年間通して継続的に実施されていることは評価に値する。 学部学生の系統講義から臨床実習までを通して教育を担っている点。 市民や医療スタッフへの心臓病予防及び不整脈疾患の基礎知識を伝えるための教育活動を是非実施されたい。
	研究	S	<ul style="list-style-type: none"> 不整脈の発生基盤解明を目指して実践的な研究が進展している。 研究テーマと課題、研究の方向性が明確で、論文数も急増しており、治療に有効な研究分析への評価は高いと考える。 治療成績を解析し、優れた臨床研究が進展している。
	診療	S	<ul style="list-style-type: none"> 先進的で優れた診療が実施されている。 診療環境の変更を余儀なくされるコロナ禍にあって、多くの治療実績を残していることは評価に値する。 デバイス植え込み件数など着実な診療実績。 地域の要求に充分こたえる診療が行われている。

総合内科・臨床感染症学講座	教育	S	<ul style="list-style-type: none"> ・ニーズに沿った適切な活動が展開され、コロナ感染症にも素早く対応されていることは特筆に値する。 ・若手医師育成に向け、具体的目標を定めきめ細やかな指導がなされている。地域医師会と連携し、地域学校・団体等への感染症対策指導も数多くこなし、感染症学会認定研修施設に指定されるなど、地域医療への貢献度は高く評価できる。 ・広い対象に対し教育が行われ、メディアも有効に利用している。 ・地域の感染症対策指導における課題（一般企業との連携が困難）も把握しており、課題クリアに向け今後の積極的な取組を期待する。
	研究	A	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症への対処法など高度で実践的な研究が進展している。 ・AMEDの研究班を立ち上げるなど、研究の基盤が確立できている。 ・地域固有感染症研究拠点設置を行い、観察研究基盤整備にあたったこと、更にコロナ感染症研究協力体制をとっていることは評価に値する。
	診療	S	<ul style="list-style-type: none"> ・優れた感染予防対策と臨床研究が進展している。 ・より優れた感染症治療学に向けて検証を行い、診療実績を挙げている。 ・急拡大したコロナ感染症における県北地域の医療ニーズに対応し、適切な受入・治療体制、感染指導体制を整えたことは高く評価できる。
癌集学的治療地域支援講座	教育	A	<ul style="list-style-type: none"> ・癌治療をより効果的なものにするとの目的に対して、着実に研究成果を出されている。また結果を発表、論文にまとめられている。 ・集学的治療における効果的併用治療のタイミング等が検証されることへの期待は大きく、研究計画の推進を願う。 ・研究を進めるための準備が適切に進められている。成果に期待する。
東白川整形外科学アカデミー	研究	A	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ渦の中でも入院患者の増加を認めた。特に老健施設入所者の転倒骨折、林業・土木作業中の事故による外傷への対応。 ・地域のニーズに対応するには、医師数、専門分野、異動などの課題が指摘されている。今後も診療実績のデータの集積分析により、入院受入・治療体制が整うことを期待する。 ・開業医、院内の他科からの整外的な依頼に対して、直ちに対応が来て、連絡も良好。 ・長寿社会となり骨粗鬆症が原因で、日常生活が困難となる人が多く、骨粗鬆症の予防対策が必要と思われる。
	診療	A	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナ感染症の影響はあるものの、地域の期待に応える診療が行われている。 ・地域の実態に合わせ、受診者年齢構成、疾患名、救急時の疾患名等の受診データの分析が必要と思われる。年次ごとの診療実績把握のため、各種診療データの提示があってもよい。 ・日常の診察活動を分析され、整形外科的救急対応もよくされている。 ・専門医が不足している状況で、着実な診療がなされている。 ・スポーツ医学、高齢者の骨粗鬆症治療の拠点になれば良い。

3 評価に対する講座の対応

評価者より出された助言等を今後の活動に生かすため、各講座に対して評価をフィードバックしております。助言等に対する各講座の主な対応策等は、以下のとおりです。

<地域包括的癌診療研究講座>

- ・ 今後は新たに放射線治療機器の搬入が行われ治療が開始される。そのほかの分野においてはがん治療センター開始後の評価を行い、さらに効果的な活動を目指す。
- ・ 寄附者と現場において様々な会議を通じて進捗状況を報告し、記録に残していく。
- ・ がん治療センター開設後3か月が経つ。会津地域の中核病院と連絡を取り、各疾患における連携方法などについてがん治療センターがいかなる連携を可能とできるか追求する。

<周産期・小児地域医療支援講座>

- ・ 有用な医療支援ができるよう、受療動向と小児・周産期に関するデータの調査・解析を継続する。周産期死亡の高い原因については、現在、県内の分娩施設に対して死亡例調査を行っており、今後解析を行う。全国に比して悪い早産児の予後についても調査していく。
- ・ 国立福島病院の周産期医療終了に伴い、問題が生じないように活動を行ってきて、一定の効果があげられたと考える。今後さらに有用な医療支援を行っていく。
- ・ 公立岩瀬病院における周産期・小児医療、福島病院における重症心身障害児医療に対する支援を継続し、須賀川地域の医療に貢献していく。
- ・ 小児科医および産婦人科医育成プログラムの開発にも力を入れ、須賀川地域および福島県全体の次世代医療を担う人員の確保を目指す。

<災害医療支援講座>

- ・ 被災地の医療機関で診療に従事しながら臨床データを蓄積する体制を継続し、今後も地域医療の充実に貢献していく。新型コロナウイルス感染拡大時の医療機関の現状についても考察を重ねる。
- ・ ミーティングにおいて継続的に研究計画の見直しを行うと共に、十分な成果が得られているか検証を行う。
- ・ 今後も診察を通して自らの勤務する地域における受療動向及び住民のニーズを分析し、ニーズに合った診療活動を継続していく。また、所属医師の診療活動について、今後も報告書の作成を行い広く情報提供を行う。

<地域産婦人科支援講座>

- ・ 子宮頸がん検診受診率向上に向けて、いわき市と協力してHPV自己採取事業を行う。
- ・ AGEsに関してきちんとしたデータにすべく努力する。
- ・ 卵巣がんのマーカーについては追跡調査を続けている。

<生体機能イメージング講座>

- ・引き続き、計画に沿って研究を遂行していく。
- ・PET を中心としたマルチモダルイメージング研究を推進する。

<多発性硬化症治療学講座>

- ・次代の神経疾患医療を担う医学生の教育に一層力を入れて取り組む。アンケートを実施し、次年度の教育の内容や指導法の改善に役立てる。
- ・多発性硬化症と関連疾患の研究プロジェクトを完成させ、今後の臨床、病態解析と新規治療法の開発について具体的な解析目標を新たに設定する。病態解明について、網羅的解析やAIなども導入していきたい。
- ・ふくしま県内外での地域連携、そして海外の診療グループとも協力して診療活動を広げる。
- ・今後は、MS や NMO の治療指針の作成に取り組む。また、MOGAD の国際診断基準の診断感度と特異度を検証し、診断困難例の解析を行う。新規治療候補薬を治験につなげる。寄附者には定期的に説明を行う。
- ・他科や他の医療施設との連携を様々なレベルで深化させて診断の向上と治療の最適化を一步一步進めていきたい。
- ・診療現場における若手医師の指導を強化し、診療の質を向上させていきたい。

<ヒト神経生理学講座>

- ・S と自己評価した理由は、予定の脊髄損傷患者の研究以外に脳卒中患者への研究を開始した為である。
- ・本研究の最終結果が出た時点で、県境科学科との共同研究、臨床現場での応用などの研究へと発展させる予定である。
- ・脳神経内科医を福島県内で増やすように心がけており、会津地域で脳神経内科を専攻する新しい世代が育つと予想される。

<先端地域生活習慣病治療学講座>

- ・令和4年度以降はAI 関係の業績も論文文化できるよう励む。
- ・遠隔医療に関してはパートナー関係の締結を希望する施設が増えている。量質ともに充実させた未来型の医療モデルの構築に向けて励む。
- ・寄附者とは定期的に生活習慣病対策について検討し、会議録も残している。十分な情報供給はなされていると考える。
- ・災害時医療への応用は新しい提案ができるよう努める。高血圧・高尿酸血症など生活習慣病のメルクマールも来年以降の報告書に記載する。
- ・南相馬市立総合病院における慢性腎臓病診療は軌道に乗ったが、今後はクリニックや保健師などと共同した多角的アプローチによる疾病対策に注力する。
- ・南相馬・福島発の新しい地域医療モデルとして発展させていきたい。2022年10月29日の日本透析医学会総会では、遠隔医療を用いた新しい地域医療の取り組み・福島モデルとしてシンポジウムで採り上げられる。

- ・南相馬市の成果を福島県全体に広げていくことは福島医大の責務であると考えている。設置期間にこだわらず取り組んでいく所存。

<エピゲノム分子医学研究講座>

- ・来年度の進捗報告に向け精力的に研究を進める。

<周産期間葉系幹細胞研究講座>

- ・来年に向けてさらに努力する。
- ・AI に関してもよいコントロールの指標、マーカーの探索も同時に行っていき、成果を出せるように全力を尽くす。

<肥満・体内炎症解析研究講座（アスタチン核種治療研究講座）>

- ・本研究をさらに発展できるよう精進する。

<運動器骨代謝学講座>

- ・さらに連携の幅を広げて診療の向上に努める。
- ・寄附者である寿泉堂総合病院では、病棟勉強会は実施しているが、今後院内での活動報告も行う。
- ・今後、診療実績についても報告する。

<低侵襲腫瘍制御学講座>

- ・協力施設に理解のある研究者が複数おり計画通りに進捗することが出来た。引き続き、気を引き締めて進めていく。
- ・いまだ論文化できていないテーマ、採択に至らない解析結果もあるので、さらに考察を深めて、論文投稿に進める。
- ・月に1度の研究カンファをWeb上でも継続し、今後も進捗管理を行う。
- ・研究期間に余裕があるので、新規研究の計画も立て、速やかに実施していきたい。
- ・福島県および、寄附者にとって引き続き有意義な研究を行い、教育活動にも力を入れていく。

<外傷再建学講座>

- ・セミナー参加者へのアンケートはwebでも可能であり、実際に行なったセミナーもある。検証して活用していく。
- ・質の良い臨床研究はその道の専門家が必要で、診療ではなく研究を中心とした人員が必要だと感じている。
- ・会津地域だけでなく、今後福島県全体の治療の質を上げるため尽力する。
- ・人員不足は深刻。学術活動でアピールしても会津という地方に全国から医師が来る事は無いのかと思う。現時点で解決策が見出せず人員確保に限界を感じている。

<スポーツ医学講座>

- ・コロナで停滞した活動を再開していく。

- ・学会発表などを増やし、継続して努力する。

<手外科・四肢機能再建学講座>

- ・医療スタッフ向けの講習会、大学と協同の若手手外科医のワークショップをオンラインにて行っており、対象者へのアンケートによる検証を計画する。昨年度はコロナ禍により、院内の勉強会以外は、オンラインでのわずかな教育活動しか出来なかった。今後、さらなる研修会の開催を計画する。
- ・手外科専門医を志す若手医師の育成も地域医療のための重要な使命と考えている。今後計画書に明記する。
- ・これまで市内では不可能であった機能再建手術の件数は提示できるが、個々の症例によって障害状況が異なるため、身障者の割合についての検証は困難と思われる。

<地域救急医療支援講座>

- ・学生、スタッフ、臨床研修医への教育効果を数値化することは難しいが、救命の重要性、初期対応、初期診療の大切さを継続して伝えていく。
- ・今年度は地域医療政策室の協力で福島市内の臨床研修病院での教育体制が十分行われていると情報共有できた。その上で、研修病院では伝えきれない救急診療における実践的な知識、技術を伝えていきたい。
- ・今後、コロナ患者蔓延における救急医療体制の問題点について分析論文を予定。
- ・搬送困難事案を含む福島市救急医療体制については定期的に寄附者と情報共有する必要がある、密に連絡をしていく。
- ・コロナ第7波では患者数の増加により救急医療体制が崩れた。福島市内の救急隊と連携するコマンダーとしての役割など、別な形での市内救急医療体制への貢献も考えている。

<白河総合診療アカデミー>

- ・指導医間の役割分担を明確化し有機的な教育体制を進める。また、教育の効果についての評価方法について検討する。
- ・前設置期間の業績は今後記載を省略する。
- ・ご指摘の通りマンパワー不足は総合的課題であり、在宅訪問診療とコロナ診療、救急外来診療といった地域のニーズの高い診療を現有のマンパワーで質を保って行っているかどうかについて今後検証し、必要に応じて人材の確保も考えていく。

<疼痛医学講座>

- ・多職種で研究発表を行い、論文にまとめていく。
- ・毎週行っている多職種カンファランスで課題の検討を確実に行っていく。
- ・年度別経過報告も作成して、よりわかりやすい報告書にする。

<外傷学講座>

- ・看護師に対する教育の効果の検証方法について、検討する。
- ・現地開催、Web開催など状況に応じて対応し、教育活動を続ける。

- ・今後の診療について適切に計画、対処し、経時的な経過も報告する。

<心臓調律制御医学講座>

- ・循環器内科専攻医および看護師等医療スタッフ対象の勉強会等実施しているが、報告が不十分だった。一般市民向けの啓蒙活動について、新型コロナウイルス感染症の動向を見極めながら検討していきたい。
- ・臨床実習における系統講義の効果判定についても実施する。
- ・今後も患者様本位の診療を継続し、また新型コロナウイルス感染拡大防止を徹底した上で、実績を重ねる。
- ・他院よりのデバイス適応患者の紹介数増加を目指し、地域医療連携にも注力する。

<総合内科・臨床感染症学講座>

- ・継続的に適切な教育活動、効果的な教育と効果の検証を適切に続ける。
- ・一般企業との連携が困難という地域の感染症対策指導における課題について、これまで以上に行政と連携をする。
- ・地域固有感染症研究、コロナ感染症研究を続ける。
- ・伊達市以外（福島市など）からの新規発生患者、他院（医大、日赤など）からの紹介患者もすでに多数受け入れており、今後もこれを継続し、県北保健所管内における COVID-19 診療をリードしていく。

<癌集学的治療地域支援講座>

- ・研究成果を地域の医療に還元するために、得られたデータを論文として纏め上げることを最初の目標とし実績を構築していく。
- ・今年度は計画を実施する期間に入る。成果報告会にてアドバイザーの先生方からコメントがあったように、年次計画をさらに細かいフェーズにわけ研究を実施することで自身の活動を逐一評価しながら研究を進める。

<東白川整形外科アカデミー>

- ・外来患者数、入院患者数、手術数は漸減傾向にはあるが、本地域の診療体制維持のためには2名体制の維持が必要と考察している。
- ・中山間地域での整形外科診療の研究とともに、同地に派遣された若手整形外科医師の生涯教育という観点から、研究・発表・論文執筆を指導し、研究業績を増やせるような体制を構築中である。令和4年度も、過年度に所属していた若手教員が所属中に行った研究・発表を指導しており、当講座からの研究業績となる見込み。
- ・関節リウマチや骨軟部腫瘍の専門診療が引き続き行われており、今年度も専門性を有した医師が赴任している。一般的な整形外科疾患と専門的な医療の提供を継続したいと考えている。
- ・派遣される医師の専門性が年度ごとに変わるのが課題ではあるが、今年度は骨粗鬆症診療の経験を有する医師が着任し、スポーツ医学分野については以前常勤医であった医師が外来診療を行っており、地域のニーズに対応できると考えている。